

## 2 学校教育の努力点とその推進計画

### (1) 推進テーマ

言葉を進んで調べる伊勝っ子の育成 ー辞書引き学習を通してー

### (2) 育てたい子ども像と研究のねらい

本校では、昨年度より「言葉を進んで調べる伊勝っ子」を目指し、全学年で辞書引き学習に取り組んできた。その結果、今までよりも辞書が身近なものになり、辞書を使って言葉を調べることが好きな子どもや辞書を使って言葉を調べることが得意であると答える子どもが増えた。また、漢字が正しいかどうかや意味が適切であるかどうかを調べるなど使い方に広がりが見える子どももいた。しかし、辞書をひくのが速い子どもに周りが頼りがちになり、辞書をひくことをやめてしまう子どももいて全体指導の場で使うことの難しさを感じることもあった。

辞書を使うことを楽しいと感じられるような、辞書の使い方が広がるような実践を心掛け、昨年度の実践を改善したり、他の学年の実践を取り入れたりして、言葉を進んで調べる子どもを育てていきたい。

### (3) 推進の方法

#### ① 実践について

##### ア 辞書引き学習について

すべての授業において、辞書を机の上に置いておく。言葉を調べ、付箋をページに付けた言葉にマーカーを引いたりする。子どもの実態に合わせ、各学年でルールを決めるものとする。

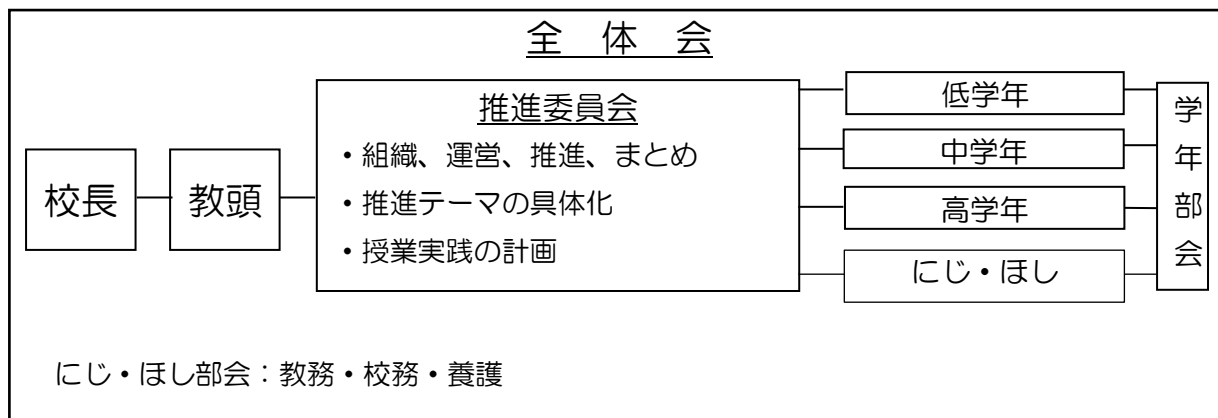
##### イ 授業実践について

- 実践は、子どもの実態に合わせて、各学年で話し合っていく。
- 学級担任は一人一授業実践を行う。
- 教科については、どの教科でもよい。
- 時間は、通常の授業の時間に加えて、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の朝の学習の時間や授業の始めや終わりの15分でもよいこととする。
- 学年で、実践が前期と後期に分かれるように話し合う。
- 実践の1週間前には、実践の日程を決め、教務に申し出る。  
(できるだけ時期が集中しないようにしてください)
- 低学年、中学年、高学年、にじ・ほし組の4つの部会に分かれて、授業研究を進める。部会内で事前検討会・事後検討会を行う。部会の職員と希望する職員が参加する。
- 指導案は、略案または流れを示したものとする。特別支援学級は、親学級に入って授業実践を行ってもよいが、個別の支援計画案などを作成する。授業前日の朝までに配付する。
- 部会の職員と希望する職員、教務主任、努力点推進委員長か努力点担当が参観する。

#### ② まとめについて

中間まとめと最終まとめの2回、子どもの変容をまとめる。

③ 推進組織について



(4) 年間計画

4	・ 主題の決定と推進のための組織づくり (推進委) ・ 主題の決定と推進のための組織づくり (全体会)	10	・ 中間報告会 (全体会)
5	・ 各学級・学年の推進計画立案 (学年部会) ・ 各学級の授業実践 (各学級)	11	
6		12	・ 実態調査 (担任アンケート)
7	・ 実態調査 (担任アンケート)	1	・ 最終報告会のもち方の提案 (全体会) ・ 各学級の授業実践 (各学級)
8	・ 先進校への視察、資料の収集 (個人)	2	・ 本年度努力点の反省 (各学級) ・ 最終報告会 (全体会)
9	・ 中間報告会のもち方の提案	3	次年度の努力点推進 (推進委)